SUPPLEMENT TO GENES GENET. SYST. (2007) 82 (4) September 2007

GSJ コミュニケーションズ

PROCEEDINGS OF THE SOCIETY

第79回大会ニュース（その4）

大会会長挨拶（歓迎メッセージ）
大会総合案内
大会日程表

本会記事

今年度の日本遺伝学会木原賞・奨励賞受賞者
過去5年間の日本遺伝学会木原賞・奨励賞受賞者
会員異動

公募など

国際宇宙ステーション宇宙実験候補テーマの募集
国立遺伝学研究所教授または准教授の公募
国立遺伝学研究所博士研究員の公募　　など

GENETICS SOCIETY OF JAPAN (GSJ)
◆創立1920年◆
日本遺伝学会
http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj3/index.html

GSJ
コミュニケーションズ
82-4
日本遺伝学会交流誌　GGS付録
2007年9月4日発行

目　　次　　頁

第79回大会ニュース（その4）..... 3
大会会長挨拶（歓迎メッセージ）..... 3
大会総合案内 3
大会日程表 7
大会開催場所地図（岡山大学各キャンパス）..... 8
大会開催場所地図（大会の行なわれるキャンパス詳細図）..... 8
公開市民講座　ご挨拶 9
本会記事 11
今年度の日本遺伝学会木原賞・奨励賞受賞者 11
過去5年間の日本遺伝学会木原賞・奨励賞受賞者 11
会員異動 12
公募など 16
国際宇宙ステーション宇宙実験候補テーマの募集 16
国立遺伝学研究所教授または准教授の公募 16
名古屋市立大学教授または准教授の公募 17
国立遺伝学研究所博士研究員の公募 18
お茶の水女子大学特任助教の公募 18
猿橋賞候補者の募集 19
山田科学振興財団研究援助候補の推薦 19

岡山 大会ニュース その4

日本遺伝学会第79回大会案内

大会会長挨拶（歓迎メッセージ）

日本遺伝学会第79回大会への歓迎のご挨拶

第79回大会委員長　香川　弘昭

皆様，日本遺伝学会第79回大会に参加していただき，厚くお礼申し上げます．
本大会は学会員，品川日出夫会長ならびに学会幹事，関係各方面の皆様方のご協力のもと，大会準備委員会全員が一丸となって準備いたしました．今大会は会員による一般講演，招待者による特別講演，世話人が企画した公募ミニシンポジウムに加えて国際研究集会を併行して行います．

メンデルの遺伝の法則，ワトソン・クリックのDNAの2重鎖モデル，各種生物ゲノムの全塩基配列決定と50年毎にエポックが現われ，遺伝学の重要性は以前に増して深まり広がってきております．昨年の大会ではバイオリソースプロジェクトの研究成果が披露され，動物，植物，菌類，細菌に至るまであらゆる生物の研究課題がDNAの塩基配列を通して語り合う事が出来るようになり，遺伝学の課題を問い直すことも可能になりました．

ご存知のように日本遺伝学会は他のどの学会より多く回を重ねておりますし，大会は口頭発表という従来の形式を踏襲しており，初めて参加する学生から，積年の研究者まで同じ時間で発表されます．また，研究分野を取りまとめたミニシンポジウムは世話人による演者に加えて一般講演に応募した中から選ばれた演題を加えて，個々の発表からは見えにくい最新の研究動向について討論されます．さらに，日本学術振興会の支援を得て，海外研究者を加えた国際研究集会「遺伝子発現の制御とゲノム機能の戦略」を開催します．線虫，ショウジョウバエ，シロイヌナズナなどのモデル生物を取り扱っている研究者を招待しました．また，この研究集会には岡山大学の国際交流基金の援助により，大学間交流締結校からも研究者を迎えております．学生も含めた若い研究者が気軽に海外の人たちと交流できる機会持っていただけたらと期待しております．前学会長の石和貞男先生が来年7月の第20回ベルリン大会の次の第21回国際遺伝学会をぜひ日本で開催しようと準備中ですので，国内の準備体制を整える事に多少貢献出来るのではないかと思っております．

岡山の古名は吉備と呼ばれて大和に次ぐ大きな古墳も多数あり，空陸海とも至便の土地で，四国三海（太平洋，瀬戸内海から日本海までの四県）に囲まれ，学会の前後に隣接の観光地を訪れる事も容易で，研究発表とともに記憶に残る第79回大会になるよう願っております．

2007年9月

日本遺伝学会第79回大会総合案内

2007年の第79回大会は，下記のような企画で準備を進めております．

大会ホームページ（http://www.okayama-u.ac.jp/user/iden79/index.html）では，より詳細な最新の情報をご覧いただけます．

1.　会　　場　　岡山市津島中3-1-1　岡山大学理学部　一般講演／ミニシンポジウム
創立50周年記念館　国際研究集会　特別講演／総会／受賞講演
http://www.okayama-u.ac.jp/jp/access.html
岡山市の情報（宿泊施設など）はホームページを参照下さい．
http://www.google.co.jp/　「岡山市　宿泊」で検索

2.　会　　期　　2007年９月19日(水)・20日(木)・21日(金)
なお，公開市民講座を９月22日(土)　午後２時～５時
創立50周年記念館で予定いたしております．

3.　企　　画

(1) 一般講演　(理学部)

９月19日午前９時～12時，20日午前９時～12時，21日午前９時～12時30分

講演時間は１題につき15分（質問時間を含む）を予定しております．PCによる発表のみのため，USBフラッシュメモリーあるいはCD-ROMにデータを保存してお持ち下さい．発表用PCへのデータの移動は，発表当日朝８時から８時50分の間に，各発表会場にてお願い致します．発表当日にはお早めに発表会場にお越し下さい．

(2) 特別講演　(創立50周年記念館)

９月20日（水）午後１時～３時05分

13：00～13：05　Introductory Remarks　**Hideo Shinagawa**　(President of GSJ)

13：05～13：45　(Chair: Ikue Mori, Nagoya Univ., Japan)

Jonathan Hodgkin　(Oxford Univ., UK)

Genetics and genomics of host-pathogen interaction in *C. elegans*

13：45～14：25　(Chair: Minoru Murata, Okayama Univ., Japan)

Steven Henikoff　(Fred Hutchinson C. R. C., USA)

Epigenetic patterns generated by histone replacement

14：25～15：05　(Chair: Yuji Kohara, National Inst. of Genetics, Japan)

Robert Waterston
(Washington Univ., USA)

Beyond the genome: Automated, continuous, cell-based analysis of embryonic gene expression in *C. elegans*

９月21日（木）午後１時30分～２時10分

13：30～14：10　(Chair: Taku Takahashi, Okayama Univ., Japan)

Nam-Hai Chua
(Rockefeller Univ., USA)

Mechanisms of action of virus gene silencing suppressors

(3) ミニシンポジウム　(理学部)

タイトルとオーガナイザーは以下のとおりです．

９月19日(水)　13：00～14：50

1)　植物のペプチドホルモンの分子遺伝学

福田裕穂（東京大学），平野博之（東京大学）

2）　相同 DNA 組換えの基本機構と高等生物ゲノム再構築への展望

飯田　滋（基礎生物学研究所），柴田武彦（理化学研究所），土岐精一（農業生物資源研究所）

9 月19日（水）15：00～16：50

3）　プログラム死：単細胞微生物での機構と意義

小林一三（東京大学），沓掛和弘（岡山大学）

4）　染色体の複製機構とゲノム安定性

真木寿治（奈良先端大）小林武彦（国立遺伝研）

9 月19日（水）17：00～18：50

5）　RNA 干渉（RNAi）による遺伝子サイレンシング

黒田行昭（国立遺伝研），上田　龍（国立遺伝研）

6）　分子進化の中立説：これまでの40年とこれから

宮下直彦（京都大学），高橋　亮（理化学研究所）

7）　高校“生物”で遺伝をどう教えるか

池内達郎（東京医科歯科大），向井康比己（大阪教育大）

9 月21日（金）14：20～16：10

8）　藻類：分子遺伝学の新しいモデル実験系

高橋裕一郎（岡山大学），福澤秀哉（京都大学），石浦正寛（名古屋大学）

9）　発生分化過程における細胞核ダイナミクス

深川竜郎（国立遺伝研），佐渡　敬（国立遺伝研）

（4）国際研究集会　（創立50周年記念館）

9 月19日（水）13：00～18：40

9 月21日（金）14：20～16：50

プログラムはホームページ http://www.okayama-u.ac.jp/user/iden79/79GSJ_IS.pdf をご覧ください．

（5）公開市民講座　「身近な生物とヒトを通して見る　新しい遺伝学の潮流」

9 月22日（土）午後 2 時～ 5 時　（創立50周年記念館）　予約不要　入場無料

世話人：鎌田　堯（岡山大学大学院自然科学研究科）

市民公開講座ファイル挿入

4.　総会・受賞講演：岡山大学創立50周年記念館

9 月20日（木）午後　（15：20～17：30）

5.　懇親会：ロイヤルホテル

9 月20日（木）夜　（18：30～20：30）

6.　Best Paper 賞：

昨年の大会と同様の要領で，日本遺伝学大会企画集会幹事を中心として大会発表の一般演題の中から優れた研究発表10件程度を選んで，表彰いたします．

7.　参加登録：

本大会の事前登録の申し込みは 7 月31日で締め切りました．ウエブによる事後登録を 8 月31日までに出来なかった方は，当日受付も可能です．

http://www.okayama-u.ac.jp/user/iden79/entry.html

8.　大会参加費・懇親会費：
大会 HP をご覧ください．事後登録または当日受付をお願いします．
http://www.okayama-u.ac.jp/user/iden79/entry.html

参加費

	事後登録及び 当日登録（8月1日以降）
一般会員	8,000円
学生会員	4,000円
一般非会員	10,000円
学生非会員	4,000円

懇親会費

	事後登録及び 当日登録（8月1日以降）
一般会員	7,000円
学生会員	4,000円
一般非会員	7,000円
学生非会員	4,000円

注意事項

大会及び懇親会への参加者は，必ず参加登録を行ってください．参加章の無い方は，原則として会場への入場はできません．

参加登録の完了には，Web 上での参加申し込み及び参加費の振込の両方が必要です．7月31日迄に参加登録された場合でも，8月1日以降に参加費を振込まれる場合は，事後登録の金額をお支払い下さい．

注）海外からの参加者は当日受付でのお支払いとなりますので，この限りではありません．

インターネットからの大会及び懇親会参加申し込みは，8月31日(木)をもって締め切らせていただきました．9月1日(金)以降の参加登録は，当日受付にてお願いします．

8月31日までにオンライン参加登録ならびに会費のお支払いを済まされた方には，9月上旬に参加章と講演要旨集を郵送します．それ以外の参加者には大会当日にお渡しします．

9.　大学へのアクセス
岡山まで JR 利用
＊岡山駅前から岡電バス「岡山大学・妙善寺」行に乗車，「岡大東門」，「岡大西門」又は「福居入口」で下車．
＊岡山駅前から岡電バス「津高営業所」行に乗車，「岡山大学筋」で下車，徒歩約7分．
※上記2路線は市内を廻るため時間がかかります．
＊岡山駅西口から岡電バス「岡山大学・岡山理科大学」行に乗車，「岡大入口」，「岡大西門」，「福居入口」又は「岡大東門」で下車．
※本線は時間帯により「岡大東門」には停車しない場合があります．
なお，「岡大東門」へはキャンパス外周を廻った後に到着します．
＊岡山駅西口からタクシー　約7分．
＊JR 津山線「法界院」駅で下車　徒歩約10分．

大会日程表（岡山大学津島キャンパス　理学部・創立50周年記念館）

受付開始 ▼ 8　9　10　11　12　13　14　15　16　17　18　19　20時

9月19日（水）

I会場	国際研究集会					
A会場	ゲノム構造・機能解析					
B会場	トランスポゾン・ゲノム再編	集団・進化	S1 植物ペプチドホルモン	S3 プログラム死：単細胞微生物	S5 RNA干渉	
C会場	分子進化・分子系統		S2 相同組換え	S4 染色体複製機構	S6 分子進化の中立説	
D会場	複製・組換え				S7 高校生物	
E会場	遺伝子機能					

9月20日（木）

H会場	特別講演／国際研究集会 (Hodgikin, Henikoff Waterston)	総会／受賞講演		
A会場	ゲノム構造・機能解析	減数分裂・生殖		
B会場	集団・進化			
C会場	分子進化・分子系統	発生・分化		
D会場	転写後調節・翻訳後調節	シグナル		
E会場	変異・修復	方法		
ロイヤルホテル	懇親会			

9月21日（金）

H会場	特別講演 (Chua)	国際研究集会		
I会場				
A会場	行動・感覚・神経			
B会場	発生・分化	S8 藻類分子遺伝モデル		
C会場	集団・進化	S9 細胞核ダイナミクス		
D会場	シグナル伝達・転写			
E会場	染色体の構造と動態			

H会場	創立50周年記念館／ホール
I会場	創立50周年記念館／会議室
A会場	理学部1階
B会場	理学部1階
C会場	理学部2階
D会場	理学部2階
E会場	理学部2階

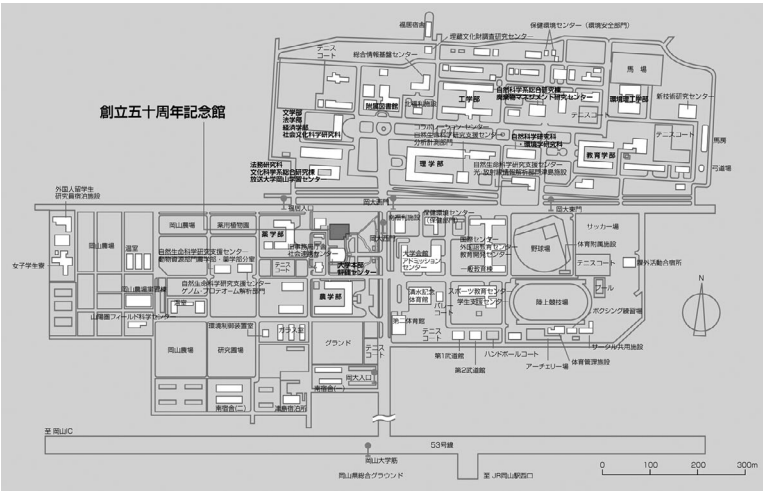
9月22日（土）

H会場	公開市民講座「新しい遺伝学の潮流」

理学部：一般講演，ミニシンポジウム
創立50周年記念館：国際研究集会，特別講演，総会・受賞講演，公開市民講座

大会開催場所地図

文学部、教育学部、同附属教育実践総合センター、法学部、経済学部、理学部、同附属界面科学研究施設、工学部、環境理工学部、社会文化科学研究科、自然科学研究科、環境学研究科、法務研究科、総合情報基盤センター、自然生命科学研究支援センター（光・放射線情報解析部門津島施設、分析計測部門）、埋蔵文化財調査研究センター、新技術研究センター、廃棄物マネジメント研究センター、附属図書館、保健環境センター（環境安全部門）
大学本部、創立五十周年記念館、医歯薬学総合研究科（薬学系）、同附属薬用植物園、薬学部、農学部、同附属山陽圏フィールド科学センター、自然生命科学研究支援センター（動物資源部門農学部・薬学部分室、ゲノム・プロテオーム解析部門）、評価センター、社会連携センター
留学生センター
教育開発センター
外国語教育センター
アドミッションセンター
スポーツ教育センター
学生支援センター
保健環境センター
（保健部門）
N
至津山
半田山
津島キャンパス
福渡
津島中
津山線
至岡山空港
至岡山IC 至津山
国道53号線
北方
ほうかいいん
新幹線
至新大阪
至大阪
山陽本線
岡山県
総合グラウンド
京山
国道180号線
伊福町
南方
出石町
（市内路面電車路線）
至大阪
至総社
柳川
後楽園
柳川交差点
西川
至広島
至倉敷
東山地区
東山
東山公園
県道162号線
大供
清輝橋交差点
大雲寺交差点
教育学部附属教育実践総合センター、教育学部附属小学校、同　附属中学校、同　附属幼稚園
医学部、歯学部、医学部・歯学部附属病院、保健学研究科、医歯薬学総合研究科（薬学系除く）、おおもと自然生命科学研究支援センター（光・放射線情報解析部門鹿田施設、動物資源部門）、医療教育統合開発センター、附属図書館鹿田分館
東古松
鹿田キャンパス
医学部納骨堂
平井
平井地区
教育学部附属養護学校
国道30号線
瀬戸大橋線
至高松・坂出
宇野線
至宇野
旭川
至姫路
至倉敷
国道2号線
至宇野


創立五十周年記念館
福渡宿舎
埋蔵文化財調査研究センター
保健環境センター（環境安全部門）
テニスコート
総合情報基盤センター
馬場
工学部
附属図書館
石井記念館
環境理工学部
新技術研究センター
文学部
法学部
経済学部
社会文化科学研究科
理学部
教育学部
法務研究科
文化科学系総合研究棟
放送大学岡山学習センター
自然科学研究科
環境学研究科
自然生命科学研究支援センター
光・放射線情報解析部門津島施設
外国人留学生研究員宿舎施設
正門
西大入口
正門入口
西大通門
保健環境センター（保健部門）
サッカー場
体育関連施設
女子学生寮
岡山農場
薬用植物園
薬学部
自然生命科学研究支援センター
動物資源部門農学部・薬学部分室
テニスコート
大学本部
新技術センター
野球場
屋内活動合宿所
岡山農場実験場
自然生命科学研究支援センター
ゲノム・プロテオーム解析部門
農学部
留学生センター
外国語教育センター
教育開発センター
一般教育棟
アドミッションセンター
スポーツ教育センター
学生支援センター
陸上競技場
ボクシング練習場
山陽圏フィールド科学センター
環境科学研究室
第一体育館
グランド
テニスコート
サークル共用施設
岡山農場
研究農場
第1武道館
ハンドボールコート
第2武道館
アーチェリー場
体育管理施設
西大入口
南宿舎(一)
南宿舎(二)
清輝橋西口
至 岡山IC
53号線
岡山大学前
岡山県総合グラウンド
至 JR岡山駅西口
0
100
200
300m
N

公開市民講座　「身近な生物とヒトを通して見る　新しい遺伝学の潮流」

ご　挨　拶

公開市民講座世話人
岡山大学自然科学研究科
鎌　田　　堯

日本遺伝学会第79回大会が岡山で開催されるにあたり，遺伝学の第一線で活躍する優れた研究者を迎えて，市民および高校・大学の学生の皆様を対象に公開市民講座を開催いたします．

近年，遺伝学が目覚しく進展し，人のくらしに深くかかわるようになり，DNA・遺伝子・ゲノムといった，遺伝学に関係するキーワードがマスメディアで頻繁に使われるようになっています．しかしながら，「遺伝学」は，一般の方の多くには難しいというイメージを与え，その実態については正しく理解されていない面もあるように思われます．そのため，遺伝にかかわる健康・医療問題，環境問題，食料問題などにおいて，時としてさまざまな誤解や不安を招く原因となっているように思われます．この講演会が，そうした誤解や不安の解消に向けてのきっかけになれば幸いです．

３人の講師の方に，「身近な生物とヒトの遺伝学」について分かりやすく話していただきます．「身近な生物」としては，特に日本人に馴染みの深いアサガオとカイコを取り上げます．これらの生物の遺伝が人のくらしに長きにわたり深くかかわってきたことを知っていただくとともに，目覚しく進展する現代遺伝学の一端を垣間見ていただきたいと思っております．また，ヒトの遺伝学については，ヒトの進化の過程で起きた環境と遺伝子の変化の関わりについてお話ししていただきます．生命系の中でのヒトについて，遺伝学の観点から改めて考える機会にしていただければ幸いです．

・講演者・講演タイトル

「タネのできない変化アサガオの種明かし」　　仁田坂英二（九州大学大学院 理学研究院）

奈良時代に中国から薬草として渡来したアサガオも，次第に観賞用に栽培されるようになりましたが，長い間にわたり原種の青い花以外，いくつかの色変わりしか知られていませんでした．ところが，今から250年ほど前の江戸時代，備中松山（岡山県高梁市）で絞り模様の「黒白江南花（松山ア

サガオ)」が出現しました．これが全国に広まり，その子孫から花の色や模様だけでなく，花や葉の形について多様な変わり物（突然変異体）が出現し，その後のアサガオブームの原動力になったと考えられています．

アサガオとは思えないような花や葉の形をした，変化アサガオの中には種子を結ばないものも多く，これらは特に出物（でもの）と呼ばれています．出物の種子は，出物の兄弟で，出物の遺伝子を隠し持つ見た目が普通のアサガオから採ります．これを翌年まけば，そこから，また４分の１の確率で出物が出てくるわけです．このことはメンデルの遺伝法則を試していることに他ならないのですが，江戸時代の人々は遺伝の仕組みはおろか，植物が受粉して種子を作る仕組みすら知りませんでした．それでも経験的に出物を維持･再現する方法を体得したのです．しかし，この方法が確立する以前に，突然変異によって出物が出現したはずですが，では最初はどうやって種子のできない出物を維持することができたのか，ということが依然謎のままです．今回，この不思議な変化アサガオについて，遺伝学の目から謎解きをしてみたいと思います．

「カイコの遺伝学とその将来」

伴野　豊（九州大学大学院 農学研究院 遺伝子資源開発研究センター）

日本では昭和40年代までは養蚕が広く行われていたため，カイコは日本人には大変馴染みが深い昆虫でした．しかし，残念ながら現在では養蚕業の衰退により見る機会が減ってしまいました．カイコを知る方はご存知であるかと思いますがカイコは成虫になっても飛ぶことは不可能です．幼虫時期も餌であるクワがなくなっても自ら動こうとはせず，人間が餌を与えるまで動かず待ち続けます．このようなカイコの従順な性質は人間の長年の育種の結果であると考えられています．養蚕目的で大量に飼育されたカイコでは日本を中心に多くの突然変異体が発見されています．カイコの幼虫の体色は白，繭の色は白が一般的ですが，体色が黒，黄色，赤の変異がある他，縞模様や褐色の斑紋を持つカイコ，黄色，笹色，ピンク色，橙色などの繭を作る変異系統もあります．これはほんの数例で，幼虫時代の脱皮の回数（４回が最も普通ですが２回から５回まで変異），成長の速度，卵色，卵形，繭の形等に変異は多様で，現在までに約200を超える形質に変異体が報告されています．これらの変異体を利用して，メンデルの遺伝法則が動物でも見られることが1906年に，連鎖群の発見が1913年に，一代雑種の利用が農業生物の生産性に著しい効果のあることは1914年に発見されています．カイコの分野では突然変異体が遺伝学の研究や教育に貢献して来たばかりでなく，雌雄識別や，品種改良，特定の物質の生産，遺伝子工学利用に応用してきた点に特色があると言えるでしょう．

「遺伝子――私たちが祖先から受け継いだ遺産」

颯田葉子（総合研究大学院 大学先導科学研究科）

地球上に生命が誕生してから現代の私たち（人間）が誕生するまでには40億年近い歳月が流れてきた．この間の出来事は，今では想像することしかできないが，その痕跡は私たちの遺伝子に書き残されている．40億年の生命の歴史上で起きた様々な出来事が，私たちの遺伝子にどのような痕跡をとどめ，今に生きている我々にどのような影響を与えているかを紹介する．本講演では，特にヒトの進化の過程で起きた環境と遺伝子の変化の関わりについて詳しく述べる．

例えば，私たちが毎日食事で摂取しているビタミンＣ．摂取しなければならないのは，私たちの祖先が果物，花や葉などビタミンＣが豊富な食べ物を容易に手に入れることできた環境で進化してきたことと関係している．また，痛風や高血圧になるのは，進化の過程の遺伝子の変化と関連しているし，さらに，食物の様々な味や匂いを区別するのは生命の維持に必要な栄養素を摂取するのに欠かせないが，味覚や嗅覚を司る遺伝子にもヒト特異的な変化が起きている．このような変化も私たちがどの様な環境で進化してきたかと密接に関わっている．

人間を含め現在の地球上の全ての生命が様々な環境の中で進化してきた過程は遺伝子に書き込まれてきた．遺伝子を通して受け継いできた歴史を知ることから「生命とは何か」を考えてみたい．

今年度の遺伝学会木原賞・奨励賞受賞者

日本遺伝学会木原賞（第79回大会）受賞者
堀内　　嵩　教授（基礎生物学研究所ゲノム動態研究部門）
【研究題目】
「染色体複製阻害点における複製阻害の分子機構と遺伝学的意義の解明」
「Studies of DNA replication fork blockage at replication termini in chromosome: Molecular mechanisms and genetic consequences.」

日本遺伝学会奨励賞（第79回大会）受賞者
菱田　　卓　准教授（大阪大学微生物病研究所）
【研究題目】
「DNA 複製時におけるゲノム安定性維持機構の解析」
「Molecular mechanisms for genome stability coupled with DNA replication」

日本遺伝学会奨励賞（第79回大会）受賞者
篠原　美紀　准教授（大阪大学蛋白質研究所）
【研究題目】
「減数分裂期組換えの制御メカニズムの解明」
「Studies on molecular mechanism of meiotic recombination」

日本遺伝学会木原賞受賞者一覧表（過去５年間）

回	年	受　賞　者	研　究　題　目
第74回大会	2002（平14）	高木　信夫 （北海道大学・教授）	哺乳類Ｘ染色体の不活性化
第75回大会	2003（平15）	高畑　尚之 （総合研究大学院大学・教授）	Molecular population genetics and speciation model
第76回大会	2004（平16）	な　　し	
第77回大会	2005（平17）	五條堀　孝 （国立遺伝学研究所生命情報・DDBJ 研究センター長）	ゲノムの比較解析に基づく進化遺伝学的研究
第78回大会	2006（平18）	岡田　典弘 （東京工業大学大学院生命理工学研究科生体システム専攻・教授）	レトロポゾンを用いることによる生物進化の機構解明への新しいアプローチ

日本遺伝学会奨励賞受賞者一覧表（過去５年間）

回	年	受賞者	研究題目
第74回大会	2002（平14）	関根　靖彦 （立教大学・助教授）	転移性遺伝因子 IS の転移とその制御の分子機構
		深川　竜郎 （国立遺伝学研究所・助教授）	高等脊椎動物の染色体分配機構に関する研究
第75回大会	2003（平15）	印南　秀樹 （テキサス大学ヒューストン校・助教授）	DNA 多型の維持機構に関する理論的研究
		田村浩一郎 （東京都立大学・助手）	塩基配列進化の理論的研究
第76回大会	2004（平16）	小林　武彦 （基礎生物学研究所・助手）	真核生物リボゾーム RNA 遺伝子増幅の分子機構
		松永　幸大 （大阪大学大学院・助手）	植物性染色体の分子遺伝学的解析
第77回大会	2005（平17）	那須田周平 （京都大学大学院農学研究科・助手）	コムギ及び近縁種染色体の分子細胞遺伝学的解析
		木下　哲 （国立遺伝学研究所育種遺伝研究部門・助手）	植物のインプリンティングの制御機構
第78回大会	2006（平18）	佐渡　敬 （国立遺伝学研究所人類遺伝研究部門・助手）	X 染色体不活性化の分子機構
		鈴木　善幸 （国立遺伝学研究所生命情報・DDBJ 研究センター遺伝情報分析研究室・助手）	自然選択検出法の開発と応用

◆会　員　異　動◆

新入会・再入会

小　出　陽　平	060-8589	札幌市北区北９条西９丁目 北海道大学大学院農学研究科　応用生命科学専攻　育種工学講座 植物育種学分野
葛　　黎　穎	108-8639	東京都港区白金台4-6-1 東京大学医科学研究所
吉　田　明希子	113-0033	文京区本郷7-3-1 東京大学大学院理学系研究科
三本松　良　子	135-0064	東京都江東区青海2-42 独立行政法人　産業技術総合研究所 臨海副都心センター　別館　バイオ・IT 融合研究棟生物情報解析研究センター 統合データベース解析グループ
濱　田　純　也	192-0397	東京都八王子市南大沢1-1 首都大学東京理工学研究科　生命科学専攻　進化遺伝学研究室
茂　泉　幸　太	236-8501	神奈川県横浜市金沢区1-50-1 関東学院大学工学部工業化学科
川　島　一　剛	236-8501	神奈川県横浜市金沢区六浦東1-50-1 関東学院大学
吉　田　祐　輔	239-8686	神奈川県横須賀市走水1-10-20 防衛大学校応用化学科生物化学講座
西　岡　　輔	240-0193	神奈川県三浦郡葉山町湘南国際村 総合研究大学院大学　葉山高等研究センター
樋　渡　智　秀	277-8562	千葉県柏市柏の葉5-1-5 東京大学大学院　新領域
檀　上　稲　穂	305-0074	茨城県つくば市高野台3-1-1 バイオリソースセンター　細胞材料開発室
Liimien, Yee	338-8570	さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学大学院　理工学研究科

水　多　陽　子	411-8540	三島市谷田1111 国立遺伝学研究所　総合研究大学院大学　生命科学研究科　遺伝学専攻
藤　田　雅　丈	411-8540	三島市谷田1111 情報・システム研究機構国立遺伝学研究所　系統生物研究センター
河　合　洋　介	411-8540	静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所
藤　本　　龍	411-8540	三島市谷田1111 国立遺伝学研究所
鈴　木　留美子	411-8540	三島市谷田1111 総合研究大学院大学
定　塚　勝　樹	444-8585	岡崎市明大寺町字西郷中38 自然科学共同研究機構・基礎生物学研究所・ゲノム動態研究部門
定塚（久富）　恵世	444-8585	岡崎市明大寺町西郷中38 基礎生物学研究所　分子遺伝学研究部門
児　玉　顕　一	444-8585	岡崎市明大寺町字西郷中38 基礎生物学研究所
岡　崎　史　子	464-8602	名古屋市千種区不老町 名古屋大学　理学研究科　生命理学専攻
松　本　邦　弘	464-8602	名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院理学研究科
栗　原　大　輔	565-0871	大阪府吹田市山田丘2-1　GSEコモンイースト7F 大阪大学大学院工学研究科生命先端工学専攻
堺　　和　彦	606-8502	京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院農学研究科
岡　本　有　生	606-8502	京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院農学研究科
松　永　英　子	606-8502	京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院農学研究科
古　郡　麻　子	630-0192	生駒市高山町8916-5 奈良先端科学技術大学院大学 イオサイエンス研究科原核生物分子遺伝学講座
中　越　英　樹	700-8530	岡山市津島中 3-1-1 岡山大学大学院自然科学研究科
上　田　菜々恵	700-8530	岡山県岡山市津島中三丁目１番１号 岡山大学大学院自然科学研究科生物科学専攻
渡　邊　　愛	700-8530	岡山県岡山市津島中3-1-1 岡山大学大学院自然科学研究科生命科学専攻
茶　谷　悠　平	700-8530	岡山県岡山市津島中3-1-1 岡山大学大学院自然科学研究科
和　田　健　男	700-8530	岡山県岡山市津島中3-1-1 岡山大学大学院自然科学研究科
赤　木　一　考	700-8530	岡山市津島中3-1-1 岡山大学大学院自然科学研究科
Ahmed Mohamed Mahmoud Ahmed	700-8530	岡山市津島中3-1-1 岡山大学大学院自然科学研究科
Hamid Sadeghi-Garmaroodi	700-8530	岡山市津島中3-1-1 岡山大学大学院自然科学研究科
南　　竜之介	700-8530	岡山県岡山市津島中三丁目１番地１号 岡山大学大学院　自然科学研究科　生物科学専攻
前　田　祐　子	770-8502	徳島県徳島市南常三島町１丁目１番地 徳島大学大学院先端技術科学教育部環境創生工学専攻 生命テクノサイエンスコース
吉　田　貴　徳	810-8560	福岡市中央区六本松4-2-1 九州大学理学府生物科学科　細胞機能学講座
萬　歳　明　香	810-8560	福岡県福岡市中央区六本松4-2-1 九州大学理学府生物科学専攻

黒　木　理　恵	812-8581	福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学大学院理学研究院生物科学
中　津　可　道	812-8582	福岡市東区馬出３丁目１番１号 九州大学大学院　医学研究院　基礎医学部門 生体制御学講座　基礎放射線医学分野
矢　野　由希子	980-8578	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大学大学院　生命科学研究科　生命機能科学専攻
佐　藤　康　成	980-8578	宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大学大学院生命科学研究科　生命機能科学専攻多様化機構分野
宅　野　将　平	981-8555	宮城県仙台市青葉区堤通雨宮町1-1 東北大学大学院農学研究科
植　松　哲　生		（連絡先自宅のため不掲載）
石　島　淳　子		（連絡先自宅のため不掲載）
花　島　　功		（連絡先自宅のため不掲載）
久　保　貴　彦		（連絡先自宅のため不掲載）
津　田　勝　利		（連絡先自宅のため不掲載）
池ヶ谷　洋　佑		（連絡先自宅のため不掲載）
福　井　玲　子		（連絡先自宅のため不掲載）
山野井　　玲		（連絡先自宅のため不掲載）
矢　野　晃　一		（連絡先自宅のため不掲載）
前　畑　祐　喜		（連絡先自宅のため不掲載）
周　藤　悟　志		（連絡先自宅のため不掲載）
橋　本　理　尋		（連絡先自宅のため不掲載）
菊　野　雄　二		（連絡先自宅のため不掲載）
瓜　尾　政　博		（連絡先自宅のため不掲載）
赤　井　政　郎		（連絡先自宅のため不掲載）
西　村　啓士郎		（連絡先自宅のため不掲載）
大　道　佳　晃		（連絡先自宅のため不掲載）
三　宅　　崇		Institute of Arctic Biology, University of Alaska Fairbanks 311 Irving I Bldg, University of Alaska Fairbanks, Fairbanks, AK 99775, USA
上　原　啓　史		（連絡先自宅のため不掲載）
谷　川　　蔵		（連絡先自宅のため不掲載）
佐　藤　　紘		（連絡先自宅のため不掲載）
尼　川　裕　子		（連絡先自宅のため不掲載）
依　光　武　志		（連絡先自宅のため不掲載）
八　木　映　樹		（連絡先自宅のため不掲載）
郭　　始　光		（連絡先自宅のため不掲載）

連絡先変更

川　嶋　　剛	245-0066	神奈川県横浜市戸塚区俣野町601 横浜薬科大学　健康薬学科　分子生物学研究室
小　林　史　典	305-8602	茨城県つくば市観音台2-1-2 農業生物資源研究所植物ゲノム研究ユニット
松　田　　勝	321-8505	宇都宮市峰町350 宇都宮大学　遺伝子実験施設
隈　　啓　一	101-8430	東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 国立情報学研究所　戦略研究プロジェクト創成センター 情報学プリンシプル研究系
山　本　章　治	162-8640	東京都新宿区戸山1-23-1 国立感染症研究所　細菌第一部
光　澤　　浩	252-8510	神奈川県藤沢市亀井野1866 日本大学短期大学部　生物資源学科　生物学研究室

金　野　柳　一	324-8501	栃木県大田原市北金丸2600-1 国際医療福祉大学基礎医学研究センター
河　邊　　昭	411-8540	静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所集団遺伝研究部門
角　　友　之	240-0193	神奈川県三浦郡葉山町湘南国際村 総合研究大学院大学　葉山高等研究センター
川　岸　郁　朗	184-8584	東京都小金井市梶野町3-7-2 法政大学工学部生命機能学科
高　島　康　郎	814-0180	福岡県福岡市城南区七隈7-45-1 福岡大学医学部細胞生物学教室
斎　藤　久　美	991-0043	山形県寒河江市大字島字島南423 山形県農業総合研究センター 農業生産技術試験場 バイオ育種科
Wushur Sherengul	113-8613	東京都文京区本駒込3丁目18番22号 東京都臨床医学総合研究所
宮　崎　隆　明	411-8540	静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所　細胞遺伝研究系　細胞遺伝研究部門
佐々木　　剛	226-8501	神奈川県横浜市緑区長津田町4259-B-21 東京工業大学大学院　生命理工学研究科 生体システム専攻　岡田研究室
小　島　健　司	226-8501	神奈川県横浜市緑区長津田町4259-B-21 東京工業大学大学院　生命理工学研究科 生体システム専攻　岡田研究室
北　野　　誉	316-8511	茨城県日立市中成沢町4-12-1 茨城大学　工学部　生体分子機能工学科
澤　井　裕　美	565-0871	大阪府吹田市山田丘3-1 大阪大学　微生物病研究所　感染症国際研究センター 感染制御部門　マラリア学研究室
Jeffrey Fawcett		VIB, Department of Plant Systems Biology, Gent University, Belgium
木　村　亮　介	259-1193	神奈川県伊勢原市下糟屋143 東海大学医学部法医学教室
阿　部　貴　志	526-0829	滋賀県長浜市田村町1266 長浜バイオ大学　バイオサイエンス学部
笠　井　文　生		（連絡先自宅のため不掲載）
長谷川　政　美		（連絡先自宅のため不掲載）

退　　会

山形朋子，岸田拓士，高井憲治，木部達也，神田美知枝，ワン ニーヤン，北岡　瞬，松崎邦彦，(株)資生堂研究所

休　　会

木村直美

寄贈図書・交換図書

科学	Vol. 77	No. 2, 3, 4	(2007)
統計数理	Vol. 54	No. 2	(2006)
ChineseJournal of APPLIED & ENVIRONMENTAL BIOLOGY	Vol. 13	No. 2, 3	(2007)
ACTA SOCIETATIS BOTANICORUM POLONIAE	Vol. 76	No. 1	(2007)
PROCEEDING OF THE INDIAN NATIONAL SCIENCE ACADEMY	Vol. 71	No. 5, 6	(2005)
PROCEEDING OF THE INDIAN NATIONAL SCIENCE ACADEMY	Vol. 72	No. 3, 4	(2006)
CHINESE QINGHAI JOURNAL OF ANIMAL AND VETERINARY SCIENCES	Vol. 37	No. 2, 3	(2007)

（鈴木真有美）

◆国際宇宙ステーション「きぼう」船内実験室宇宙実験候補テーマの募集◆

宇宙航空研究開発機構は，国際宇宙ステーション「きぼう」船内実験室および搭載する実験装置を利用し2010～2011年頃に実施を目指す宇宙実験候補テーマを募集します．

1.　募集締切：
平成19年９月28日（金）　消印有効

2.　募集対象分野：
宇宙環境を利用する以下の科学研究と関連する技術開発
生命科学
物質科学／凝集系科学

3.　応募書類等
宇宙航空研究開発機構のホームページからダウンロードしてください．
http://kibo.jaxa.jp/experiment/theme/jpm02/application.html

4.　お問い合わせ先：
財団法人 日本宇宙フォーラム 技術・研究推進部
「きぼう」船内実験室利用テーマ　募集係
〒100-0004　東京都千代田区大手町二丁目２番１号　新大手町ビル７階
TEL：03-5200-1303　FAX：03-5200-1421
E-MAIL：kiboexp@jsforum.or.jp

この募集の問い合せ窓口業務は宇宙航空研究開発機構の委託を受けた（財）日本宇宙フォーラムが行っています．

◆情報・システム研究機構国立遺伝学研究所　研究教育職員募集要項◆

1　所　　属：　集団遺伝研究系　進化遺伝研究部門
2　職名・募集人数：　教授又は准教授　１名
3　採　用　条　件：「優れた研究業績を有し，進化遺伝学の分野で独創的な研究を展開できるとともに，教授又は准教授として高い見識と指導力を持つ者」
4　採用予定時期：　決定後できるだけ早い時期
5　応　募　締　切：　2007年10月26日（金）正午必着
6　提　出　書　類：
　(1) 履歴書（英文・和文各１通，年号は西暦，Ｅメールアドレス記入）
　(2) 学術論文，総説などの目録（主要論文の番号に○印を付してください.）
　(3) 現在までの研究の概要と将来の方向・希望（英文Ａ４紙２～３枚）
　(4) 本人について評価できる研究者４名（うち国外２名以上）の氏名と連絡先
　(5) 略歴書（HP に書式を掲載）
　(6) 主要論文別刷
7　提　出　方　法：
　提出書類(1)－(5)は，できるだけ電子メールでお願いします．
　a. メール題名（Subject:）を，「進化遺伝教授（又は准教授）応募」とし，メール本文にもその旨明記してください．
　b. 提出書類 (1)－(4) の内容は改頁で区切り，一つのファイルにしてメール添付で送付ください．ファイル形式は MS-Word または pdf でお願いします．また，(5)の略歴書については，様式をホームページからダウンロードの上，記入してください．
　http://www.nig.ac.jp/jimu/jinjiboshuu/

c. (6)の主要論文は，www で閲覧可能なものに関しては http アドレスを含んだリストをメール本文に記入し，別途郵送にて主要論文別刷一式を送付ください．
メールでの応募が不可能な場合には，郵送での応募も受け付けます．
郵送は，応募する部門・研究室名及び職名を封筒に朱書きし，書留で送付ください．
＊応募書類等は，原則として返却いたしませんのでご了承願います．
また，メール着信後，２日以内に受信した旨返信いたします．

提出・問い合わせ先等
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所人事委員会（総務課人事係）
E-mail： nigjinji@lab.nig.ac.jp
郵　送： 〒411-8540　静岡県三島市谷田1111番地
電　話： 055（981）6710（直通）　Fax：055（981）6715
ホームページ：http://www.nig.ac.jp/
国立遺伝学研究所組織図（http://www.nig.ac.jp/section/index-j.html）

◆名古屋市立大学教授または准教授の募集要項◆

1. 募集人員： 教授または准教授のいずれか1名（経験と実績による）
2. 所　　属： 名古屋市立大学・大学院システム自然科学研究科　生体情報専攻
3. 専門分野： バイオインフォマティクス（生命情報学）
バイオインフォマティクスに関わる研究をされている方．大学院システム自然科学研究科博士前期課程，後期課程の研究教育指導，講義，および，一般教養教育の物理または化学の講義・実験の一部を担当していただきます．なお，現在，当研究科内の生体高次情報系の関連分野では，能登原盛弘教授，間野修平准教授が，集団遺伝学における確率過程の研究，及びゲノム配列・多型のデータ解析方法の研究を行っています．
4. 着任予定日： 平成20年４月１日
5. 応募資格： 博士の学位を有し，着任時に年齢50歳以下であることが望ましい．
6. 応募書類： (1)履歴書，(2)論文リスト，(3)主要論文の別刷り５編以内，(4)これまでの研究の概要（A４紙２ページ程度），(5)今後の研究・教育についての抱負（A４紙２ページ程度），(6)当研究科で担当可能な講義について，(7)一般教養教育科目で担当可能な講義と実験について，(8)過去５年間の研究費採択状況，特許，受賞など特記すべき事項，(9)問い合わせのできる方の氏名と連絡先（２名）
7. 締め切り： 平成19年10月26日（金）　必着
8. 書類提出先： 〒467-8501　名古屋市瑞穂区瑞穂町山の畑１
名古屋市立大学事務局教務課学務係
表に「システム自然科学研究科教員応募書類」と朱書し，「配達記録郵便」でお送り下さい．
（なお提出書類は返却致しませんのでご了承下さい．）
9. 本件に関する問い合わせ先：
〒467-8501　名古屋市瑞穂区瑞穂町山の畑１
名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科
教員選考委員会　舘脇　洋
電話番号：052-872-5791
e-mail: htatewak@nsc.nagoya-cu.ac.jp
10. 備　　考： 当研究科の詳細については，http://www.nsc.nagoya-cu.ac.jp/ を御覧ください．

◆2008年度情報・システム研究機構国立遺伝学研究所　博士研究員募集◆

1.　募集人員　　ポスドク 10名程度
2.　応募資格　　博士の学位を取得した者又は博士の学位取得が確実な者，本研究所の研究プロジェクトを推進するために必要な研究能力を有する者
3.　雇用期間　　2008年４月１日～2009年３月31日
　　継続の申請と審査を経て通算２年間（24ヶ月）の雇用が可能.
　　応募書類で申請すれば，着任の日を2008年10月１日までの範囲で遅らせることができる.
4.　給 与 等　　本研究所の規程に基づき決定（年俸410万円程度／税込），社会保険適用，裁量労働制
5.　提出書類　　履歴書，これまでの研究内容の要旨，発表論文リスト，研究課題及び研究計画，推薦者名（受入先の本研究所研究教育職員），推薦者による意見書，着任を遅らせたい場合は，その理由と着任の日
6.　応募締切　　2007年12月14日（金）　17時必着
7.　提出方法　　電子メールに応募書類を添付して連絡先のアドレスに送信願います.
8.　連 絡 先　　情報・システム研究機構国立遺伝学研究所研究推進室研究協力係
　　Email: kenkyo-admin@lab.nig.ac.jp　TEL 055-981-6711
　　※応募前に必ず本研究所のホームページ（http://www.nig.ac.jp）にある募集要項を読み，詳細を御確認ください.

◆お茶の水女子大学では，「テニュア・トラック特任助教」を国際公募しています◆

《募 集 人 員》　９名（お茶の水女子大学・特任助教）
（科学技術振興調整費「若手研究者の自立的研究環境整備促進プログラム」）
《公 募 URL》　http://www.cf.ocha.ac.jp/acpro/index_ja.html
《勤　務　地》　東京都文京区大塚2-1-1
《研究分野等》
　以下の研究分野で，PI（プリンシパル・インベスティゲータ）として，研究を先導し，最先端の科学活動と教育の質の向上を図ることが期待されています.
（研究分野）
a. 生命情報学
（比較ゲノム，動的構造生物学，生体分子相互作用，システムズバイオロジー，機械学習，自然言語処理）
b. 超分子化学
（創薬化学，構造有機化学，分子デバイス・分子マシーン，生理活性物質）
その他，
c. 量子情報科学，**d.** ソフトマターサイエンス，**e.** シミュレーション科学，**f.** ユビキタス・コンピューティング，及び，関連する基礎科学・応用科学
（詳細は公募 URL をご覧ください.）
《給与・研究費等》
給　　与：　年俸制で手取り620万円程度.
研究費等：　研究計画に基づき年間100万円～1000万円を支給.
支援体制として，大学は，必要に応じ，１名のポスドク相当の特任リサーチフェローを採用します.
《応 募 資 格》
　優れた研究歴と創造的かつ自立的な研究遂行能力を有し，平成19年８月１日時点において博士の学位取得後10年以内の若手研究者
《採 用 時 期》　平成19年12月初旬以降
《応 募 方 法》
本学の公募 URL をご覧いただき，「応募書類」をまとめ，以下にご送付ください.
〒112-8610　東京都文京区大塚2-1-1
　　国立大学法人お茶の水女子大学長　郷　通子　宛

封筒の表に「若手育成プログラム特任助教応募書類在中」と朱記のうえ，必ず簡易書留で送付してください．
締め切り：　平成**19**年**10**月**1**日（必着）
《選 考 方 法》　書類審査，面接
《お問い合わせ先》
お茶の水女子大学アカデミック・プロダクション（担当教授：塩満典子）
お問い合わせは，e-mail または fax でのみ受け付けます．
e-mail: acpro@cc.ocha.ac.jp,　fax: 03-5978-5648

◆2008年度 女性科学者に明るい未来をの会「猿橋賞」候補者募集のおしらせ◆

女性科学者に明るい未来をの会より，「猿橋賞」候補者の推薦依頼が学会事務局に届いております．推薦を希望されます方は，財団への提出書類（原本）及びその写し11部（別刷のコピーも含む）を，2007年10月30日（火）（学会内で選考のため財団の提出締めきりより，通常は１ヶ月早く締めきる）までに学会事務局宛にご送付ください．

1）対　　象：　推薦締切日に50才未満で，自然科学の分野で，顕著な研究業績を収めた女性科学者
2）表彰内容：　賞状，副賞として賞金30万円，毎年１件（１名）
3）締 切 日：　2007年11月30日
4）応募方法：　所定の用紙に受賞候補者の推薦対象となる研究題目，推薦理由（800字程度），略歴，推薦者（個人または団体），及び主な業績リストを記入して，主な論文別刷10編程度（２部ずつ，コピーも可）を添え，5）の送付先までお送り下さい．
5）推薦書類送付先：
168-0071　杉並区高井戸西3-6-26
古在由秀方
女性科学者に明るい未来をの会
（封筒には，「猿橋賞推薦書類」と明記して下さい．書類は，猿橋賞選考のために選考委員会などで用いられます．書類は返却いたしませんのでご了承下さい）
6）問合せ先：　saruhashi2006@saruhashi.net

◆山田科学振興財団2008年度研究援助候補推薦要項◆

山田科学振興財団より2008年度研究援助候補の推薦依頼がとどいております．推薦を希望される方は研究援助候補推薦要項・推薦用紙を以下のホームページアドレスよりダウンロードし，提出書類（推薦書４部および別刷論文各４部）とその写し（別刷のコピーを含む）11部を，2008年２月末（学会内で選考のため財団の提出締めきりより，通常は１ヶ月早く締めきる）までに学会事務局宛にご送付ください．
http://www.yamadazaidan.jp/

援助の趣旨
1. 本財団は，自然科学の基礎的研究に対して，研究費の援助をいたします．
実用指向研究は援助の対象としません．
推薦に際しては，次記を考慮して下さい．
1）萌芽的・独創的研究
2）新規研究グループで実施される研究
3）学際性，国際性の観点からみて優れた研究
4）国際協力研究
2. 援助額は１件当たり100－500万円，総額4,000万円，援助総件数は15件程度ですが，学会からの推薦及び本財団関係者からの個人推薦の中から選考致します．
3. 援助金を給与に充てることはできませんが，特に財団が指定した場合を除き，給与以外の使途は自由です．
4. 援助金の使用期間は，贈呈した年度及びその次の年度の約２年間とします．

推薦方法

推薦者

本財団が依頼した学会の代表者

推薦件数

1推薦者ごとに2件以内

推薦手続

推薦者は，以下の書類を整え，ご送付願います．

1．所定の用紙又はその写しに必要事項を記入したもの　4部

2．添付資料（研学（'08）5/8ページ参照）

被推薦者

1）当該研究を独立して実施し得る者でなければならない．すなわち，当該研究者は代表研究者であることを必要とし，単に研究グループの研究費集めの一端を担う者であってはならない．

2）身分，経歴，年齢等は問わない．
但し，日本の研究機関に所属する研究者であること．

推薦用紙

ダウンロード（全9頁）

推薦期限

推薦を依頼した学会より，本財団へ推薦書が到着する期限は2008年3月末です．（毎年10月1日より募集開始）

選考方法

選考委員会において選考のうえ，理事会が決定します．

選考結果の通知

2008年7月末迄に推薦者及び代表研究者等宛てに通知します．

援助金の贈呈

選考結果の通知後，適時贈呈します．

Genes & Genetic Systems　第82巻4号（付録）
2007年9月4日発行　非売品
発行者　品川日出夫・斎藤　成也
印刷所　レタープレス株式会社
Letterpress Co., Ltd. Japan
〒739-1752　広島市安佐北区上深川町809-5番地
電話　082（844）7500
FAX　082（844）7800

発行所　日本遺伝学会
Genetics Society of Japan
静岡県三島市谷田1111
国立遺伝学研究所内

学会事務取扱
〒411-8540　静岡県三島市谷田・国立遺伝学研究所内
日本遺伝学会
http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj3/index.html
（電話・FAX　055-981-6736
振替口座・00110-7-183404
加入者名・日本遺伝学会）

国内庶務，渉外庶務，会計，企画・集会，将来計画，編集などに関する事務上のお問い合わせは，各担当幹事あてご連絡下さい．

乱丁，落丁はお取替えします．

この冊子に記載してある個人情報については，慎重に取り扱っていただきますようお願いいたします．